

平成25年度第2回川崎区区民会議みんなのまちづくり部会摘録

日 時：平成25年7月12日（金）午後6時30分

場 所：川崎区役所7階会議室

出席者（敬称略）

委員 9名

藍原 晃、赤間靖夫、新井一成、岩瀬絹代、木島千栄、寺尾宇一、戸村正房、
吉野智佐雄、米山 実

参与 0人

傍聴 0人

1 開会

（1）事務局

- ・会議の公開、会議録の開示、会議の記録、広報としての写真撮影等の説明
- ・配付資料の確認

（2）部会長あいさつ

2 議題

（1）報告事項

ア 今後の審議スケジュールについて（資料1）

資料1に基き、今後の審議スケジュール案について確認した。

（2）審議事項

ア コミュニティバス導入の促進について

地域交通導入に関わる取組について（資料2・3、その他）

資料2・3に基き、事務局からコミュニティバス導入に関わるこれまでの検討経緯と、路線ニーズをより明らかにするためのアンケート調査の案が示された。

戸村委員から別紙資料「新路線及び運営方式について(改定案)」が示された。また同路線を実際に自家用車で実験走行してみた際の映像が流され、その結果や様子等が合わせて報告された。

神奈川新聞に掲載された川崎市のUD（ユニバーサルデザイン）タクシーの導入と普及の取組の記事、多摩区長尾台地区で平成25年7月から試行運行を行うコミュニティバス「あじさい号」の報道発表資料が別紙で参考資料として

示された。

以上の資料や説明を踏まえて、今後の進め方についての意見交換を行った。

■新路線及び運営方式の改定案について、資料内容・映像に追加された説明

- ・川崎新町駅方面（京町・小田地区）を提案路線から除外した。一方、前回のみんなのまちづくり部会で川崎駅西口周辺は渋滞発生のため除外した方が良いという意見があったが、買い物利用などの利便性を考え、ラゾーナを通るルートは残した。
- ・提案路線の実験走行を5月12日（日）の母の日に実施した。通行速度は最大でも時速40km程度を保つようにし、実際のバス運行速度に近づけるよう努力した。
- ・さいか屋前で街宣車による混雑があり、10分ほど動けなくなったが、両周りとも30～40分で周ることができた。バス停での停車・乗降時間等は加味されていない。
- ・渋滞が心配されたラゾーナ周辺だが、実験走行時は、駐車場入口につながる車線は渋滞していたが、他の車線は割合スムーズに通行できた。
- ・車両購入等の初期費用は考慮されていない。

■主な意見

戸村委員 提案路線は循環路線なので、目的地へは、行きか帰りのどちらかで遠回りをする形になる。

事務局 ルート全部乗る人は少ないだろう。部分的に使う人がどれだけいるかだ。

事務局 アンケート調査票は路線需要の裏付けをとるための手段として、提案させていただいた。バスの利用料金はバス事業者による運営を前提として既存路線と同じ200円で想定した。

藍原部会長 アンケート調査の実施は必要だと思う。

寺尾委員長 どちら回りにするかで、運行情報がかなり異なりそうだ。専門家のアドバイスが欲しい。運賃は既存路線と同じにしたほうがよいだろう。

岩瀬委員 買い物客にとっては、ラゾーナのに入ったルートが良いと思う。主婦などは多少時間がかかっても、荷物があればバスに乗ると思う。

吉野委員 私もラゾーナはルートに入っていたほうが良いと思う。通勤とは違う発想の路線となる。

藍原部会長 道路の渋滞については、他の曜日や時間帯にも検証が必要だろう。

赤間委員 駅の両口を結ぶ、このようなルートの必要性はあると考える。

新井委員 コンパクトで良い路線提案だと思う。

木島委員 実現には初期投資が必要だが、定期運行になく、予約型のバスにす

るなどの運営方法もあるのではないか。

藍原部会長 日曜だけ、平日午後だけなどの運行も考えられる。

戸村委員 川崎区側から、西口側に行きたい人や幸区の住民にもニーズのある路線だと思う。

■ 討議結果

- ・ 戸村委員による提案路線の改定案は部会では概ね賛同を得た。事務局提案によるアンケート調査の実施と合わせ、より具体的で根拠のある提案にまとめるための検討作業を今後進めていく。

イ 地域で身近な防災力について（資料4）

資料4に基き、事務局が課題解決策の検討例を説明した。

■ 資料内容に追加された説明

- ・ 川崎市では Google Map と災害時提携協約を結んでいる。災害発生時は同社のオンライン・マップ上で、災害時の被害状況が局所的な情報も含めて、閲覧可能になる。
- ・ 臨海部における企業の取組を知ってもらうための防災出前講座については、担当部局である消防局より、対応可能との返事を得た。臨海部の企業が集まった防災協議会も立ち上げられている。

■ 主な意見

藍原部会長・戸村委員 地域との接点のない区民が非常に多い。行政による支援は、大災害の場合時間がかかることがあり、いかに地域内の区民同士で助け合えるかがポイントとなる。

米山委員 地下街の水害対策が気になる。**津波による被害の想定はないのか。**

事務局 地震による被害想定では、津波は15号線より内側には入ってこないということだが、ゲリラ豪雨などの方が怖い。アゼリアなどでは、土嚢の用意などの対策も進めている。

新井委員 いろいろな防災資料がありすぎて、見る機会、時間がない。防災時マニュアルをよりコンパクトにまとめ、閲覧しやすいシステム化を検討してはどうか。

戸村委員 情報をもっと知らしめる努力が必要。文章だけでは読まない人も多い。絵などを効果的に使ってイメージを伝え、理解してもらうことが重要だ。

■ 討議結果

- ・ 引き続き、有効な防災対策の提案について検討を進める。

ウ 区民会議フォーラムについて（資料5）

資料5に基き事務局から今年度の区民会議フォーラムについての企画概要、検討内容が示され、意見交換した。

■主な意見

吉野委員 広報の工夫も重要だ。タウンニュースなどで、効果的に広報する。

藍原部会長 各地域団体、市民活動団体へ直接案内送付をしてはどうか。

■討議結果

- ・フォーラムについては、全体の所要時間 3 時間程度で内容の検討を今後進めていく。
- ・良いアイデアや企画があれば、7月中に事務局に連絡するか、今後の会議に持ち寄ることとした。

3 閉会

あいさつとお礼 北沢副区長

(以上)